

# 田園風景はどのように作られてきたか

－西上総、小糸川中流域の弥生時代から中世の移り変わり－

千葉県教育庁文化財課 笹生 衛

## 1. 分析の視点

◎ 県内各地に残された里山・里田の風景

→ 過去数 100 年の地形変化など環境の変化と人間の営みとの関わりの中で形成。

◎ 里山・里田風景の形成過程

→ 河川や沖積平野の地形変化と集落、聖地（祭祀の場）、墓地、水田・畑、用水路の配置・変化を、弥生時代から中世までの間で総合的に見ることで説明が可能。

## 2. 対象地域と遺跡

◎ 千葉県君津市・富津市の小糸川中・下流域→古代の周淮郡の範囲

◎ 対象遺跡と立地地形

中流域

台地－前三舟台遺跡 鹿島台遺跡

沖積低地（完新世段丘面）－天神台遺跡 泉遺跡 三直中郷遺跡 姥田遺跡

外箕輪遺跡 常代遺跡 富吉遺跡 上湯江遺跡

谷内の沖積低地－郡遺跡

下流域

段丘面－打越遺跡 沖積低地－下谷遺跡、

海浜砂丘列－上野塚遺跡、亀塚遺跡、狐塚遺跡

## 3. 年代区分

◎ 弥生時代中期－B C. 1 世紀以前

◎ 弥生時代後期－A D. 1・2 世紀代

◎ 古墳時代前期－3・4 世紀代

◎ 古墳時代中・後期－5～7 世紀代

◎ 奈良・平安時代前期－8・9 世紀代

◎ 平安時代後期－10・11 世紀代

◎ 中世前期－12～14 世紀代

◎ 中世後期－15・16 世紀代

## 4. 分析結果

◎ 集落や景観の変化に見られる画期→5 世紀前後、10 世紀前後

## 5. 各時代の景観と変遷

① 弥生時代中期～古墳時代前期（1 世紀以前～4 世紀頃）

環境の特徴→中流域の沖積低地上には幅 20 m 以下の小規模河川が多数存在。

※常代遺跡の自然流路内からモミ・ツガ・ヒノキ・ニワトコなど多数の樹木が出土。

→流路周辺にこれらの樹木で構成された林が存在した可能性。

集落→拠点集落は台地上から段丘面上に立地、規模な居住域が河川流域に散在する。

→拠点集落・前三船台遺跡、鹿島台遺跡の集落形成

水田→小規模河川の堰を用水源として沖積低地に展開。→ハンノキ属の花粉の減少。

祭祀の場→水田の用水源の小規模河川内から、木製刀形・鳥形、儀仗が出土などの木製品が出土。堰周囲には 150 基以上の方形周溝墓で構成される大規模な墓域が存在。

→用水源における祭祀と祖先祭祀の関連が想定可能。

※常代遺跡の堰と常代遺跡・泉遺跡における自然流路が古墳時代前期までに埋没。

→用水機能の低下に伴い、古墳時代初頭に小糸川に面した部分に祭祀土坑が出現。

## ②古墳時代中・後期（5世紀代～7世紀代）

環境の特徴→沖積低地上の小規模な自然流路の埋没と小糸川流路の固定化。

集落→沖積低地上での集落の展開。拠点集落として天神台、泉、常代、富吉遺跡が5世紀代を境に小糸川沿いの沖積低地で一斉に成立。台地上の集落は消滅し、墓域へ変化。

水田→用水系の再構築と水田区画の再編成。集落と耕地周辺の排水溝の開削。

谷部の江川流域でも古墳後期から水田面が形成される。

※地域全体を対象とした大規模な土木工事の実施と水田の拡大。→地形環境の変化に対する人間の積極的な働きかけ→土地利用の目的にそった環境管理

祭祀の場→谷内部に掘立柱建物を中心とする郡遺跡が成立。遺跡内の溜井や流路内から木製形代・ト骨・ミニチュア土器が出土。流路に面して豪族居館と祭祀の場が成立。

→新たな用水源となる小糸川支流における祭祀の場の成立→環境管理のシンボル。

江川（郡～下湯江遺跡周辺の用水源）→郡遺跡の祭祀

宮下川（常代遺跡周辺の用水源）→取水口想定地に常世神社が位置する。

※大規模な土木工事とあわせて小糸川下流の内裏塚古墳群の成立と関連。

## ③奈良・平安時代前期（8世紀代～9世紀代）

環境の特徴→前段階の環境をほぼ踏襲。

集落→郡遺跡の居館が消滅し、常代遺跡の集落が掘立柱建物を中心に規模を拡大。

→常代遺跡を中心とした集落秩序の形成。

海浜部に7世紀以降、遺構密度の高い集落が成立→海上交通と関連する集落群。

水田・畑→古墳時代後期の用水系を維持しながら、部分的に条里地割を導入。集落周辺に畑の形成が確認できる。

祭祀の場→郡遺跡の祭祀は9世紀代まで維持される。9世紀の浄瓶が出土し、9世紀代には仏教信仰が祭祀の場に持ち込まれていた可能性あり。

常代遺跡内の水路で男根形石製品と1000個体以上の杯が集中して出土。水路内からエゴノキ・トチノキ・オニグルミ・イヌガヤ・イチイガシ・ムクロジの実が出土。

→水路周辺には木立が存在し、饗宴を伴う祭祀儀礼が行われた可能性。

※常陸国風土記「郡の東に國つ社あり。此を縣の祇と號く。社（もり）の中に寒泉あり。大井と謂う。郡に縁る男女、會集ひて汲み飲めり。」

## ④平安時代後期（10世紀～11世紀代）

環境の特徴→郡遺跡で確認できる、小糸川支流の流路変更と河床面の低下。海浜部の狐塚遺跡の集落消滅と10世紀から14世紀までの多量の砂層の堆積。

→小糸川の河床面の低下→低位段丘面の成立→流域の地下水位低下と乾燥化

集落→天神台、常代、富吉遺跡などの集落の消滅と郡遺跡の小規模居住域の成立。

→集住する集落が小規模な屋敷地の形で分散し、谷内の奥まで形成される。

→古墳時代後期以来の集落が解体

水田・畑→常代遺跡の水路の埋没と畑の拡大。完新世段丘面上での新たな水田面の形成→水源河川の河床面低下に伴う、古墳時代後期以来の用水系の消滅と新たな用水系

の構築。条里地割の広範囲での定着。

※宮下川での取水口の上流への移動と常代五ヶ村用水の原形成立？

集落や祭祀の場周辺にあった木立が伐採され畑・水田へと変化？

祭祀の場→郡遺跡と常代遺跡の祭祀の場は、10世紀代を境に確認できなくなる。

→古墳時代後期以来維持されてきた集落と墓域の消滅と連動する可能性あり。

※元慶元年（877）の常世神昇叙は、常代遺跡の水路が埋没する時期に当たっており、常世神への昇叙は、9世紀後半に起こった環境変化とそれに伴う古墳時代後期以来の用水系の機能低下に対応していた可能性あり。

### ⑤中世前期（12世紀～14世紀代）

環境の特徴→小糸川河床面の低下が進行。→小糸川に面した部分の乾燥化が進行。

集落→12世紀代から、小糸川周辺の完新世低位段丘面上に屋敷地が緩やかにまとまった形の屋敷群が点在する景観が形成される。

水田・畑→麦の二毛作や島畑の形成など、集約的な農法が導入され、小糸川流域の耕作地の乾燥化が影響していたと思われる。

※中世前半の村景観の地域的な復元例

→上総国畔蒜庄横田郷（現在の袖ヶ浦市横田地区）：14世紀から15世紀初頭の村景観が、応永年間の「名寄帳」・「検注帳」の記載内容と現地の地名・寺社との対応関係から復元が可能。

祭祀の場→古墳時代後期から平安時代前期まで祭祀の場として機能した郡遺跡に隣接して春日神社が成立。

→遺跡が立地する周西郡が、大和興福寺の所領となったことと関連するか？

→中世前半頃に権門寺院と結びついた春日・八幡などの新たな神格が導入される。

→荘園領主との関係で、地域の有力者の屋敷に隣接して成立。

※春日神社には中世末期の縁起が残り、恵心僧都による勧請や周淮郡司の信仰を受けたとの伝承を残す。山名郷鎮守神とされ、中世以降は、郷範囲の信仰圏を維持する。

※集落や神社の配置を含め、近世～現代までつながる田園風景の原形が成立。

## 5. まとめ

### ◎地域の環境変化の画期

・弥生時代後期～古墳時代前期（1～4世紀頃）：小糸川の小規模な支流の埋没。

→5世紀代の低地集落の形成と新たな祭祀・墓域の成立。

・平安時代後期（10～11世紀頃）：小糸川及び支流の河床面低下と支流の流路変化。

→古墳時代後期以来の集落・墓域、用水系が、10世紀代に解体・再編成。

### ◎耕地と植生の変化

・弥生時代→自然流路周辺にヒノキ・ツガなどの林の存在、古墳時代後期～平安時代

前期→沖積平野の集落や祭祀の場周辺に木立と畑が存在、平安時代後期～中世→用水系の整備と沖積平野上の畑・水田の全面的な展開。→現代の田園風景の骨格が成立。

### ◎祭祀のあり方

・弥生時代から平安時代前期まで、集落、耕地、用水系が相互に関連して祭祀の場が設定される傾向あり。

・中世前期に勧請される春日・八幡の神々は、荘園領主や地域の有力者との関係で祭

祀の場（神社）が設定される傾向あり。

◎中世末期から近世、近現代へ

- ・畔蒜庄横田郷の場合→堰を水源とする用水系一文禄3年（1594）「石高覚帳」2100石、17世紀末期「元禄郷帳」2112石、19世紀前半「天保郷帳」2250石  
→中世末期から近世にかけて大きな変化なし。→自然地形を利用した用水系による水田生産性は、中世末期段階で一つの到達点に達していた。
- ・20世紀初頭・明治44年～大正3年にかけて横田地区の耕地整理実施。大規模な土地の削平により大きな水田区画を形成、堰用水から小櫃川からのポンプ用水へ転換し自然地形に制限されない用水の確保→後背低地全域の水田化を実現。  
※現在の水田景観は、20世紀初頭を堺として、弥生以来の水田景観とは異質なもののへと変化している。

↓

◎地域の考古学資料の評価

- ・考古学資料を周辺の地形や環境と総合的に分析→地域の土地利用と環境変化の歴史を総合的に解明が可能→今後の地域作りや都市計画に重要な情報の提供が可能。

主な参考文献

- 天神台遺跡—『天神台遺跡発掘調査報告書』（財）君津郡市文化財センター他 1991
- 泉遺跡—『泉遺跡発掘調査報告書Ⅰ』（財）君津郡市文化財センター他 1996  
『泉遺跡発掘調査報告書Ⅱ』（財）君津郡市文化財センター他 1996
- 三直中郷遺跡—「千葉県文化財センター年報No. 24 - 平成10年度 -」（財）千葉県文化財センター 2000  
『三直中郷遺跡発掘調査報告書』（財）君津市文化財センター他 2001
- 外箕輪遺跡—『外箕輪遺跡・八幡神社古墳発掘調査報告書』（財）千葉県文化財センター他 1989  
『外箕輪遺跡Ⅱ』（財）君津郡市文化財センター他 1997  
『外箕輪遺跡Ⅲ』（財）君津郡市文化財センター他 1997
- 常代遺跡—『常代遺跡群』（財）君津市教育委員会 1996  
「千葉県文化財センター年報No. 24 - 平成10年度 -」（財）千葉県文化財センター 2000
- 郡遺跡—『郡遺跡群発掘調査報告書Ⅰ』君津市教育委員会 1994  
『郡遺跡群発掘調査報告書Ⅱ』（財）君津市文化財センター他 1996
- 富吉遺跡・上湯江遺跡—『富吉遺跡群確認調査報告書』君津市教育委員会 1996
- 前三舟台遺跡—『前三舟台遺跡』（財）君津郡市文化財センター他 1992
- 打越遺跡—『打越遺跡・神明山遺跡』（財）君津郡市文化財センター他 1992
- 下谷遺跡—『下谷古墳・下谷遺跡』（財）君津郡市文化財センター他 1990
- 上野塚古墳—『上野塚古墳』上野塚古墳発掘調査団 1982
- 亀塚遺跡—『亀塚遺跡』（財）君津郡市文化財センター他 1997
- 狐塚遺跡—『狐塚遺跡』（財）君津郡市文化財センター他 1995
- 笹生衛「田園風景の原点—環境と景観の変化から見た横田郷—」『袖ヶ浦市史 通史編1 原始・古代・中世』袖ヶ浦市 2001
- 笹生衛「古代集落の変化と中世的景観の形成—西上総、小糸川流域の事例を中心に—」『千葉県史研究 第十一号別冊 中世特集号』千葉県 2003

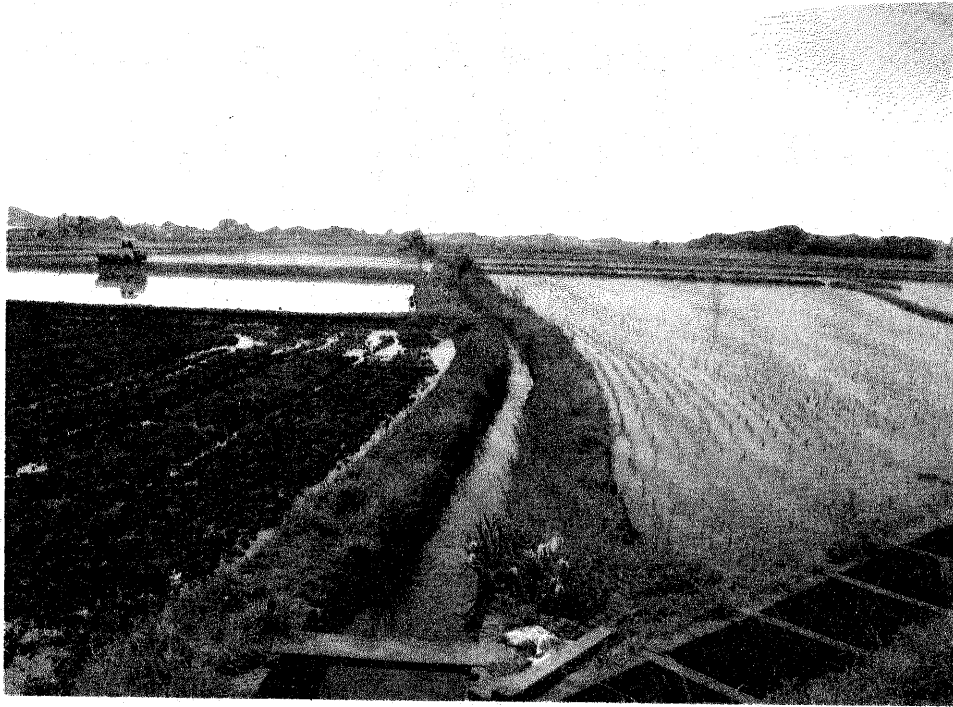
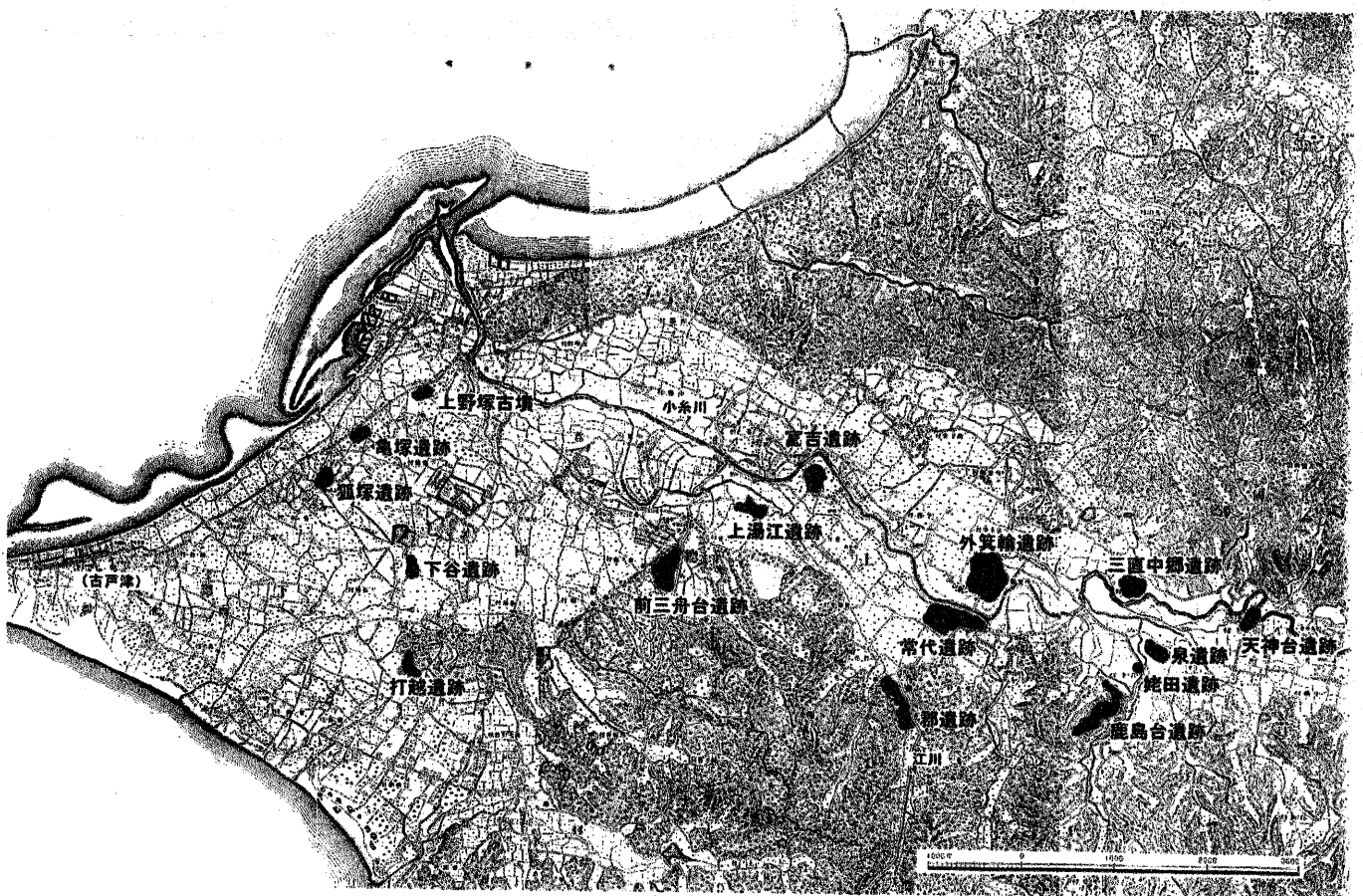


写真1 常代遺跡の西側に広がる田園風景（中央の用水は常代五力村用水の一部）



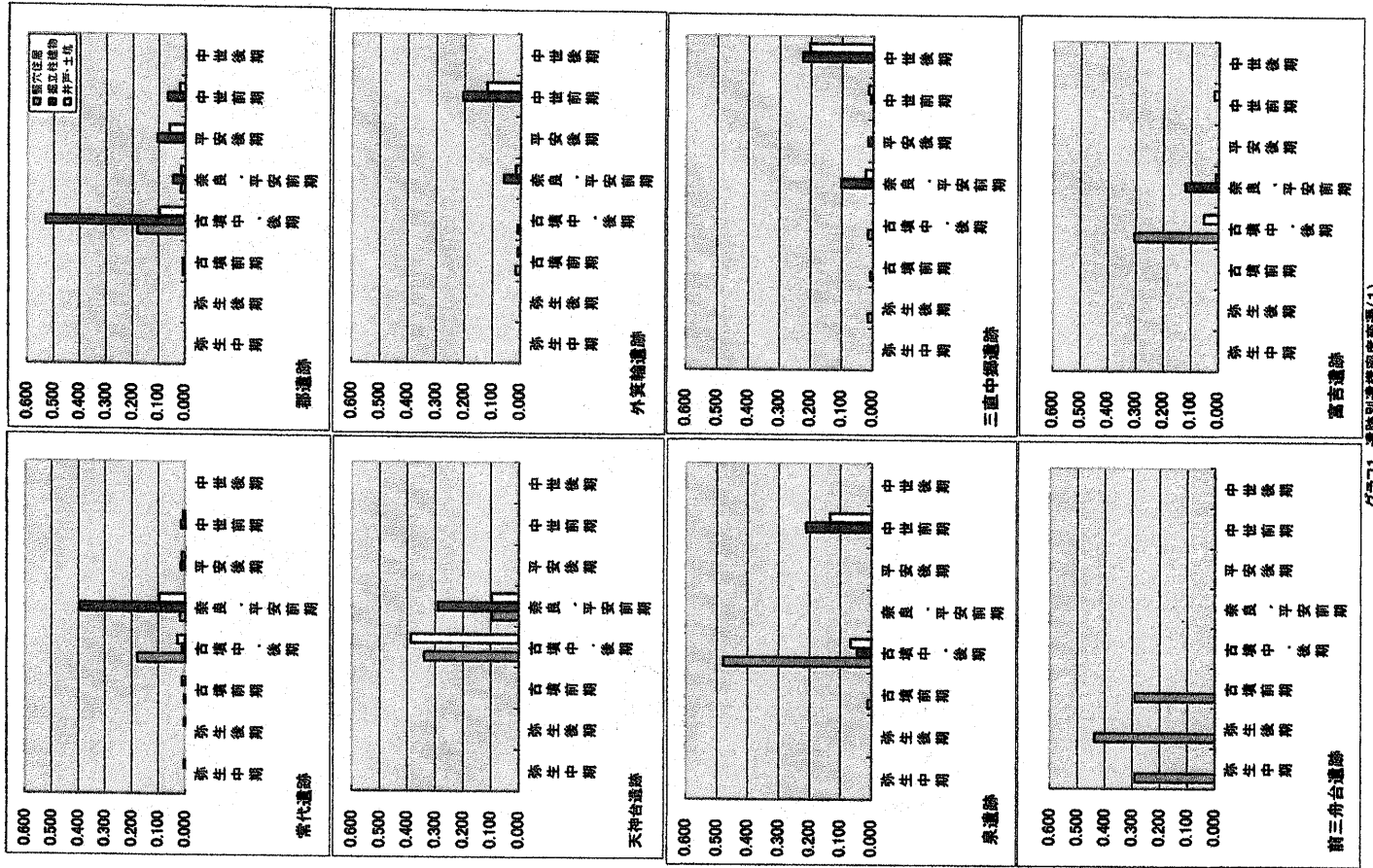
第1図 小系川流域遺跡位置図

天神台遺跡	弥生中期	弥生後期	古墳前期	古墳前期	古墳中・後期	平安前期	平安後期	中世前期	中世後期	計
2064㎡ 聖六住居 掘立柱遺物 井戸・土坑	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
三直中遺跡	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
12,800㎡ 聖六住居 掘立柱遺物 井戸・土坑	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
果濃遺跡	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
9,000㎡ 聖六住居 掘立柱遺物 井戸・土坑	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
外宮遺跡	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
11,756㎡ 聖六住居 掘立柱遺物 井戸・土坑	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
常代遺跡	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
27,000㎡ 聖六住居 掘立柱遺物 井戸・土坑	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
郡遺跡	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
13,000㎡ 聖六住居 掘立柱遺物 井戸・土坑	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
富吉遺跡	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
11,549㎡ 聖六住居 掘立柱遺物 井戸・土坑	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
上瀧江遺跡	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4,860㎡ 聖六住居 掘立柱遺物 井戸・土坑	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
前三舟台遺跡	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3,434㎡ 聖六住居 掘立柱遺物 井戸・土坑	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
打越遺跡	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
13,000㎡ 聖六住居 掘立柱遺物 井戸・土坑	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
下谷遺跡	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
1,103㎡ 聖六住居 掘立柱遺物 井戸・土坑	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
上野原古墳	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
1,000㎡ 聖六住居 掘立柱遺物 井戸・土坑	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
龜塚遺跡	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
1,200㎡ 聖六住居 掘立柱遺物 井戸・土坑	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
須賀遺跡	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2,540㎡ 聖六住居 掘立柱遺物 井戸・土坑	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

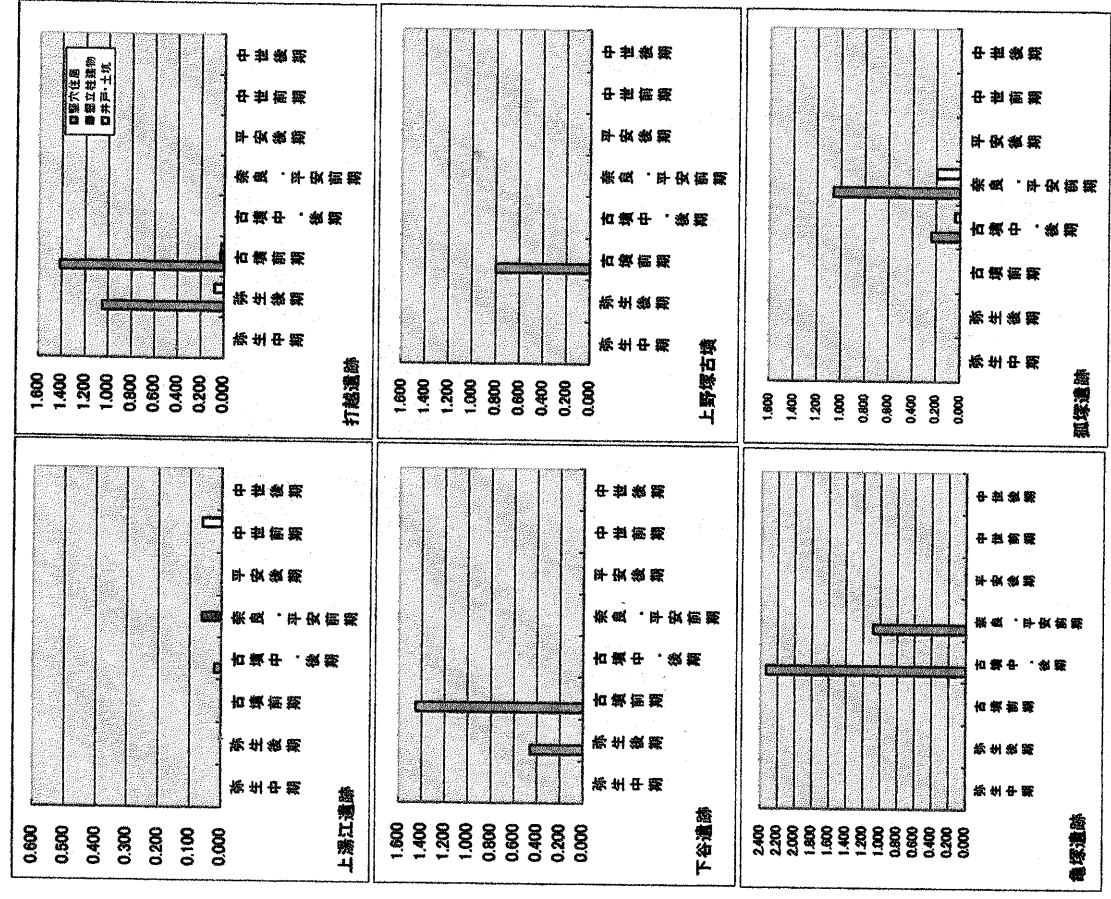
注：青線部は、遺跡の面積は、本表に於ける聖六住居、掘立柱遺物、井戸・土坑の分布範囲の総面積。

天神台遺跡	弥生中期	弥生後期	古墳前期	古墳前期	古墳中・後期	平安前期	平安後期	中世前期	中世後期	計
2064㎡ 聖六住居 掘立柱遺物 井戸・土坑	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
三直中遺跡	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
12,800㎡ 聖六住居 掘立柱遺物 井戸・土坑	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
果濃遺跡	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
9,000㎡ 聖六住居 掘立柱遺物 井戸・土坑	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
外宮遺跡	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
11,756㎡ 聖六住居 掘立柱遺物 井戸・土坑	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
常代遺跡	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
27,000㎡ 聖六住居 掘立柱遺物 井戸・土坑	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
郡遺跡	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
13,000㎡ 聖六住居 掘立柱遺物 井戸・土坑	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
富吉遺跡	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
11,549㎡ 聖六住居 掘立柱遺物 井戸・土坑	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
上瀧江遺跡	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4,860㎡ 聖六住居 掘立柱遺物 井戸・土坑	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
前三舟台遺跡	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3,434㎡ 聖六住居 掘立柱遺物 井戸・土坑	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
打越遺跡	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
13,000㎡ 聖六住居 掘立柱遺物 井戸・土坑	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
下谷遺跡	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
1,103㎡ 聖六住居 掘立柱遺物 井戸・土坑	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
上野原古墳	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
1,000㎡ 聖六住居 掘立柱遺物 井戸・土坑	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
龜塚遺跡	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
1,200㎡ 聖六住居 掘立柱遺物 井戸・土坑	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
須賀遺跡	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2,540㎡ 聖六住居 掘立柱遺物 井戸・土坑	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

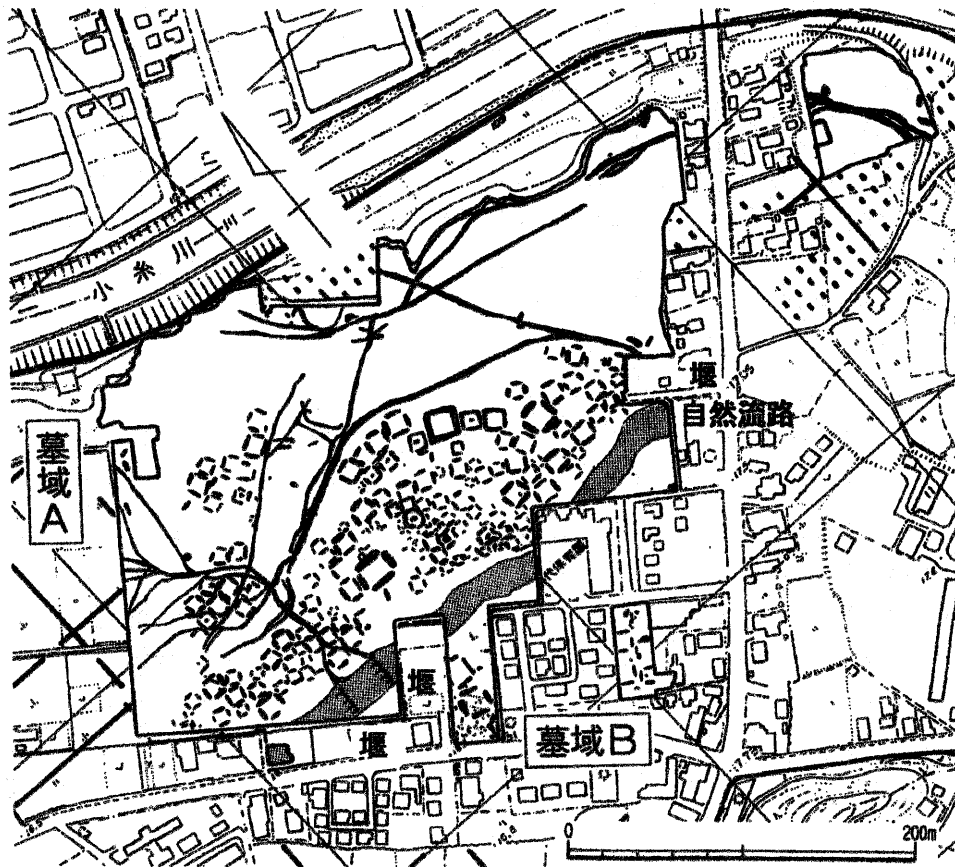
注：青線部は、遺跡の面積は、本表に於ける聖六住居、掘立柱遺物、井戸・土坑の分布範囲の総面積。



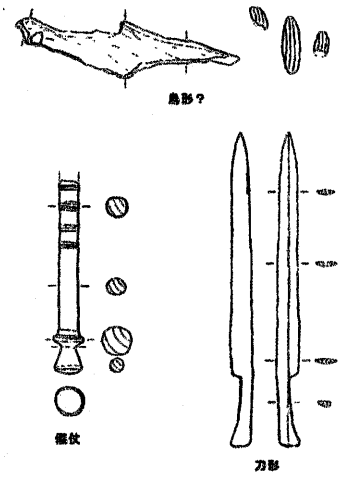
グラフ1 遺跡別花粉密度表(1)



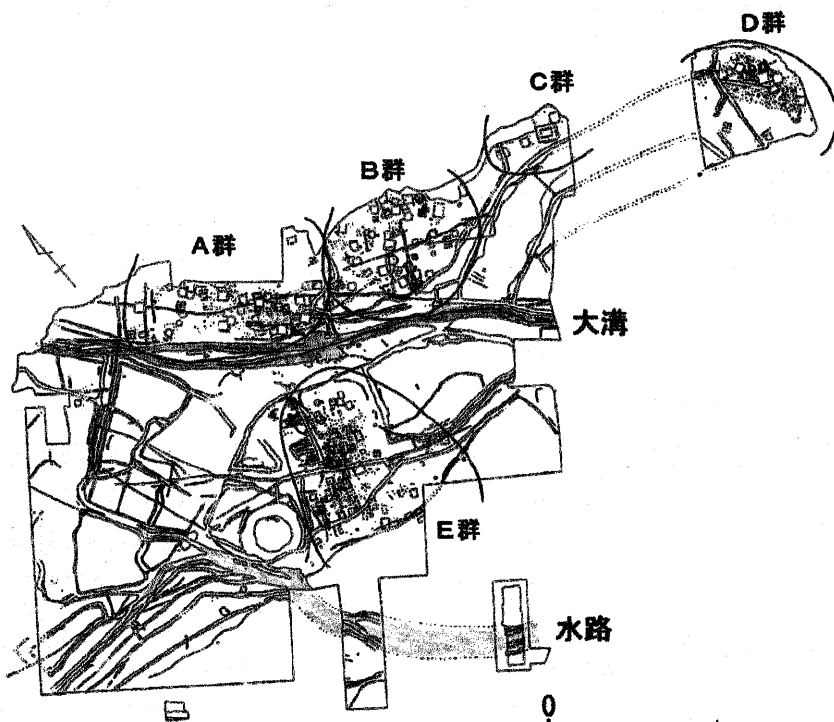
グラフ2 遺跡別花粉密度表(2)



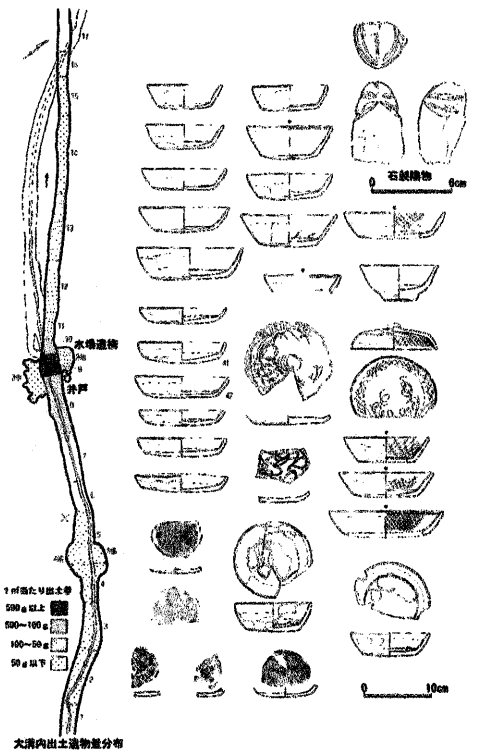
第2図 彌生時代～古墳時代前期の常代遺跡



第3図 彌生時代の木製祭り用具  
常代遺跡、自然流路(川跡)内出土。

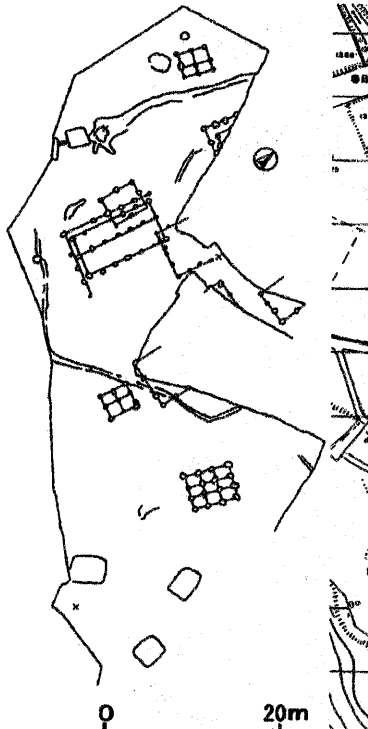


第4図 奈良・平安時代前期の常代遺跡



第5図 常代遺跡の大溝と出土遺物





No. 3地点 掘立柱建物群

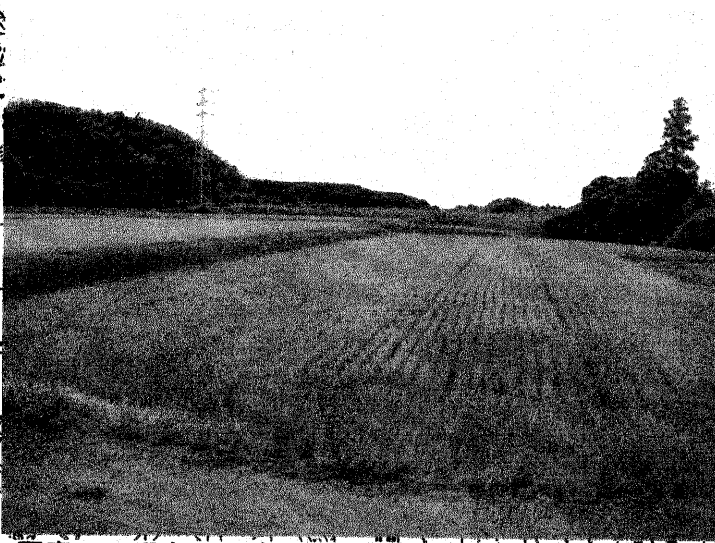
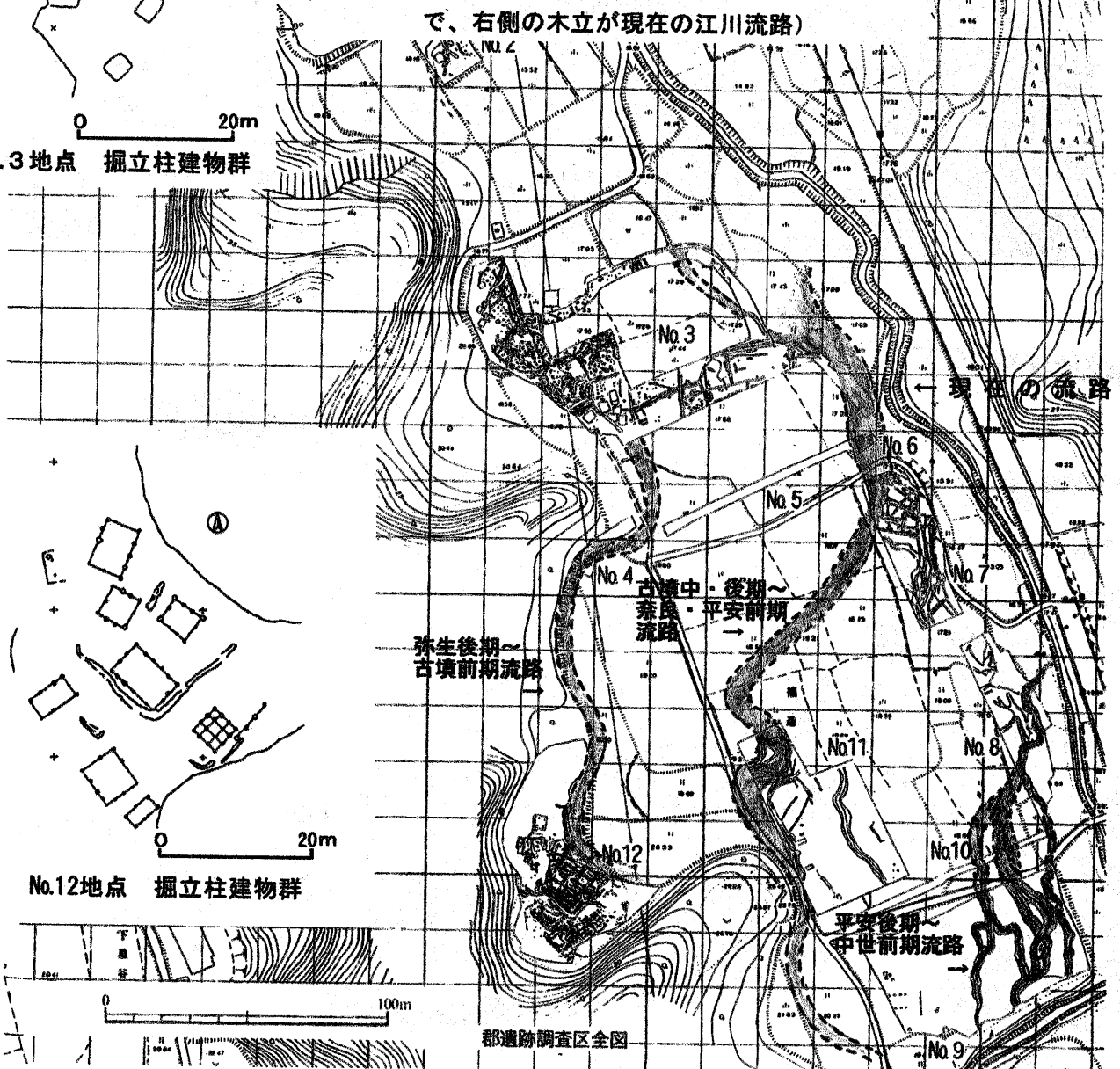
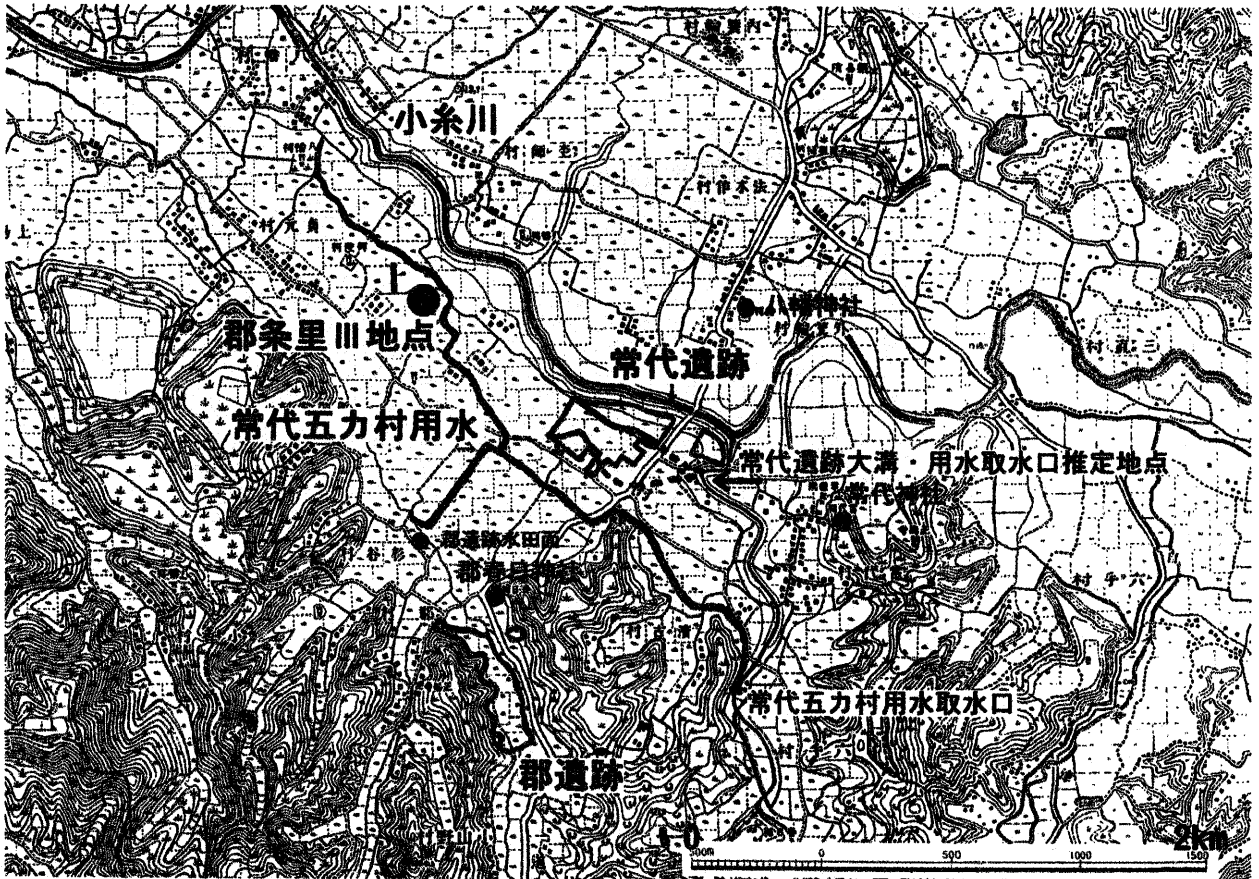


写真2 現在の郡遺跡（鉄塔の左下の水田がNo. 3地点で、右側の木立が現在の江川流路）

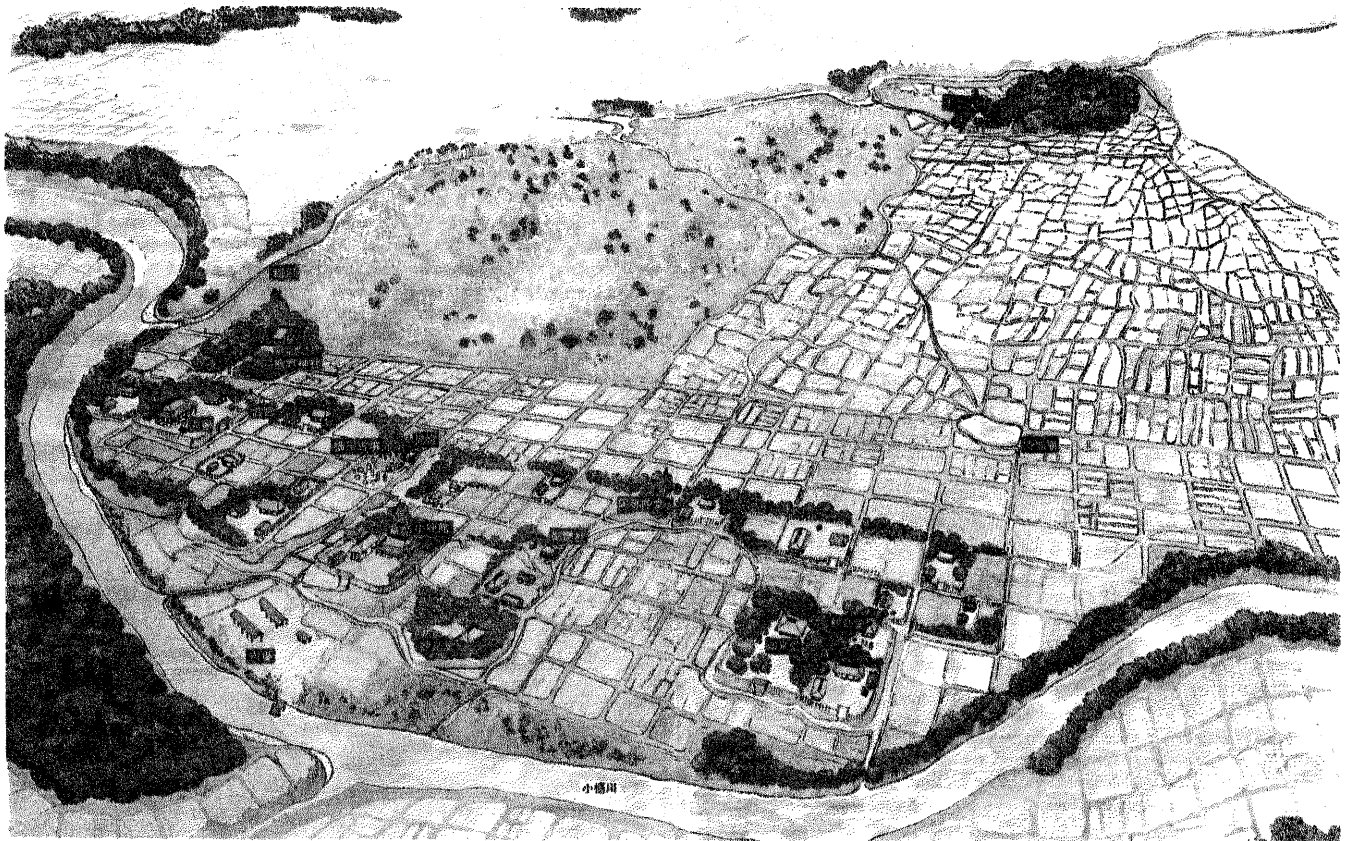


郡遺跡調査区全図

第6図 郡遺跡における古墳時代後期の掘立柱建物と江川の流路変遷



第7図 常代五カ村用水と周辺の遺跡・神社



第8図 15世紀頃の畔蒜庄横田郷の景観復元図（イラスト：笹生衛）